

科目名	地域・在宅看護論概論		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 ( 15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 地域で看護を必要とする対象の暮らしや、在宅看護の現状を理解し、地域で暮らす人びとを支援する保健・医療・福祉ケアシステムにおける看護の役割と地域連携を理解する。</p> <p>目標: 1 在宅看護の対象が生活する場を理解できる。 2 在宅看護の意義を理解できる。 3 地域で暮らす人びとを支援する地域包括ケアシステムの概要が理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 地域で暮らす人びと	8	1 人間の暮らしの理解 (1) 人間の「暮らし」「生活」を構成するもの (2) 暮らしと健康 2 地域の理解 (1) 看護職が自分たちの暮らす地域を知る意味 (2) 自分たちの暮らす地域を知る		講義
2 在宅看護の意義	2	1 在宅看護を取り巻く現状 (1) 国民の多様な価値観 (2) 在宅看護が提供される場と場の拡大 (3) 在宅看護における看護師の役割 ア 超高齢多死社会の進展と地域包括ケア		講義
3 地域包括ケアシステムにおける多職種連携	4	1 地域包括ケアシステム概念 2 地域の社会資源との連携 (1) 行政との連携 (2) 地域包括支援センターとの連携 (3) 居宅介護支援事業所との連携 (4) 介護サービス事業所との連携 (5) 住民との連携 (6) 医療機関・医師との連携		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 (医学書院)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の 留意事項	・看護の対象である人びとはどのように暮らしているのか、なぜ、看護職が地域を理解することが必要なのか、主体的に考え、地域で暮らす人びとの理解を深めることを望む。 ・地域・在宅看護論実習Ⅰや地域・在宅看護論方法論につながる基礎科目のため、積極的な学習姿勢で臨むこと。			



科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 ( 30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的:  地域・在宅看護にかかわる法令・制度や、地域での療養を支援する保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解する。</p> <p>目標:  1 在宅看護に関わる法令・制度を理解できる。  2 地域における看護活動を理解できる。  3 地域で療養を継続するための看護の連携や継続性を理解できる。  4 地域での療養の継続を可能とするための連携の実際を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 地域・在宅看護にかかわる法令と制度	4	1 訪問看護制度の創設と発展経緯 2 在宅看護にかかわる法令・制度 (1) 介護保険制度 ア 地域包括支援センター (2) 医療保険制度 (3) 障害者総合支援法 (4) 難病法 (5) 医療介護総合確保推進法		講義
2 地域における看護活動	4	1 地域の人々の健康と保健活動 (1) 生活環境の変化と人々の健康問題 (2) 地域の人々の保健行動のとらえ方 (3) 市町村における地域保健活動：市町村保健師の活動		講義
3 ケアマネジメントの概念	2	1 ケアマネジメントを必要とする背景 2 社会資源の活用 (1) フォーマルサービスとインフォーマルサービス		講義
4 在宅看護の場と役割	8	1 訪問看護ステーションのしくみ (1) 訪問看護の利用者と訪問回数 (2) 介護保険法に基づく訪問看護事業 (3) 健康保険法に基づく訪問看護事業 (4) 訪問看護の利用方法 (5) 訪問看護の費用 (6) 訪問看護ステーションの管理・運営 2 在宅看護の提供方法と看護師の役割 (1) 外来看護 (2) 施設看護 (3) 通所看護 (4) 入退院時における医療機関・施設との連携 ア 地域連携クリニカルパス イ 外来との連携 ウ 病棟との連携 エ 退院支援部門との連携 オ 診療所との連携		講義 GW

5 切れ目ない療養支援の実際	11 (4)	地域包括支援センターの機能と役割、多職種理解と連携	見学
	(4)	医療機関と地域をつなぐ退院支援部門の機能と看護師の役割	見学
	(3)	地域包括支援センター 医療機関の退院支援部門 } 見学まとめ	GW 講義
試験	1		
評価方法	筆記試験 GW や施設見学への参加姿勢 レポート等 } 総合的に評価する。		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実際 (医学書院) 新訂 写真でわかる訪問看護 アドバンス (インターメディカ)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・地域・在宅看護論実習 I (市町村保健センター等)に活用する必須の知識である。予習の うえ、積極的・主体的な姿勢で授業に臨むこと。 ・授業後は復習しておくこと。 ・また、地域での療養を継続するための支援部門の見学の際は、授業を十分に復習のうえ、 使用テキストや授業資料を持参すること。積極的・主体的な参加姿勢を望む。		

科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 ( 15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 地域で看護を必要とする対象の特徴や生活の場を理解するとともに、対象者の権利擁護や倫理的看護実践を理解する。</p> <p>目標: 1 地域・在宅看護の対象と生活の場を理解できる。 2 地域での暮らしを支える看護を理解できる。 3 地域・在宅看護の対象者の権利と、暮らしの場で看護を実践するための姿勢を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 地域・在宅看護の対象と地域での暮らしを支える看護	8	1 地域・在宅看護の対象者 (1) 地域における多様性 (2) ライフステージによる多様性 (3) 健康レベルの多様性 2 在宅看護の対象者としての家族の理解 (1) 家族の現状 (2) 家族の多様性の変化 (3) 地域・在宅看護の対象者としての家族 3 地域に暮らす対象者の理解と看護 4 地域における暮らしを支える看護 (1) 広がる対象者のニーズと支援 (2) 地域における家族看護 (3) ライフステージに応じた看護		講義
2 地域・在宅看護の対象者の権利擁護	6	1 暮らしの場で看護をするための心がまえ (1) 意思決定支援 (2) 対象者の権利擁護 (3) 守秘義務・プライバシーの保護 (4) パートナーシップ (4) 虐待防止 2 在宅看護場面における倫理的配慮		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 新訂 写真でわかる訪問看護 アドバンス (インターメディカ)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	・地域・在宅看護論実習Ⅱ(訪問看護ステーション)に活用する必須の知識・技術である。予習のうえ、授業に臨むこと。 ・積極的な学習姿勢を望む。 ・授業後は復習しておくこと。			



科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅲ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 ( 25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 地域で療養する対象の病期・症状及び状況に応じて実践する看護の基礎的技術を理解する。</p> <p>目標: 1 他宅に訪問して看護を実践するための訪問マナーを理解し、訪問時に必要な技術を習得できる。 2 在宅療養者の病期に応じた看護を理解できる。 3 在宅療養において特徴的な疾病や状況にある療養者への看護を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 訪問マナー	6 (2)	1 訪問時の基本姿勢・態度 (1) 心構え (2) 態度と行動 (3) 感染予防と個人情報の取り扱い (4) 訪問看護倫理要領		講義
	(4)	個人防護具の着脱 他宅訪問のマナー		演習
2 在宅療養者の病期に応じた看護	6	1 在宅看護介入時期別の特徴と看護 (1) 在宅療養準備期(医療機関退院前) (2) 在宅療養移行期 (3) 在宅療養安定期 (4) 急性増悪期 (5) 終末期(看取り期) (6) 在宅療養終了期		講義
3 特徴的な疾病や状況にある療養者の看護	12	1 在宅看護の実際 (1) 医療的ケア児の看護 (2) 難病の在宅療養者への看護 (3) 認知症の在宅療養者への看護 (4) 慢性疾患(COPD・脳卒中)の在宅療養者への看護 (5) がん終末期の在宅療養者への看護 (6) 精神疾患がある在宅療養者への看護		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 新訂 写真でわかる訪問看護 アドバンス (インターメディカ)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	<p>・地域・在宅看護論実習Ⅱ(訪問看護ステーション)に活用する必須の知識と技術である。予習のうえ、積極的な学習姿勢で授業に臨むこと。</p> <p>・演習は、自己学習のうえ、積極的・主体的な参加姿勢を望む。また、個人防護具着脱技術は実習に必須の技術のため、確実な習得を望む。</p>			





科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅳ		履修年次	2 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 ( 30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 地域で療養する対象の、さまざまな状況に応じて看護を実践するための基礎的知識・技術を理解する。</p> <p>目標: 1 在宅で求められる日常生活援助技術を理解できる。 2 医療依存度の高い対象の特徴と看護の実際を理解できる。 3 在宅療養上のリスクの特徴と対応を理解できる。 4 災害時における看護師の役割と対応を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 療養上の日常生活援助技術	7 (5)	1 コミュニケーション 2 食事・嚥下 3 排泄 4 移動・移乗 5 清潔		講義
	(2)	在宅における移動と移乗		
2 医療管理を必要とする療養者の看護	12	1 褥瘡管理 (1) 褥瘡発生リスクアセスメントと予防 (2) 褥瘡処置 2 膀胱留置カテーテル法 (1) 対象の特徴 (2) 在宅における安全管理 3 栄養管理 (1) 胃ろう、経管・経腸栄養法 ア 対象の特徴と栄養評価 イ 合併症予防と安全管理 (2) 在宅中心静脈栄養法(HPN) ア 対象の特徴と栄養評価 イ 合併症予防と安全管理 4 呼吸管理 (1) 在宅酸素療法(HOT) ア 対象の特徴 イ 合併症予防と安全管理 (2) 在宅人工呼吸療法(非侵襲的換気療法) ア 対象の特徴 イ 予防気道浄化のケアと安全管理 5 外来がん治療 (1) 在宅化学療法者に対する支援 (2) 在宅放射線療法者に対する支援 7 薬物療法管理 (1) 服薬状況の把握と管理 (2) 他職種(医師及び薬剤師)との連携		講義

3 地域・在宅療養におけるリスクマネジメント	10	<p>1 安全な療養を守るリスクマネジメント</p> <p>(1) 暮らしにおけるリスクと安全対策</p> <p>ア 転倒・転落           オ 身体損傷</p> <p>イ 熱中症               カ 誤薬</p> <p>ウ 窒息                 キ 感染</p> <p>エ 火災</p> <p>(2) 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント</p> <p>ア 住環境</p> <p>イ 室内の物理的環境</p> <p>ウ 生活機能</p> <p>2 地域での暮らしにおける災害対策</p>	講義 GW
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 新訂 写真でわかる訪問看護 アドバンス (インターメディカ)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・地域・在宅看護論実習Ⅱ(訪問看護ステーション)に活用する必須の知識・技術である。予習のうえ、授業に臨むこと。 ・なお、地域・在宅看護論概論や地域・在宅看護論Ⅰを復習のうえ、授業に臨むこと。 ・演習は、自己学習のうえ、積極的・主体的な参加姿勢を望む。		